

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回登米市新図書館機能検討委員会
開 催 日 時	令和6年6月25日（火） 午後2時00分 開会 午後3時58分 閉会
開 催 場 所	中田生涯学習センター 2階 学習室
委 員 長 の 氏 名	山崎 博樹
出 席 委 員 の 氏 名	知的資源イニシアティブ代表理事 山崎 博樹 登米市教育研究会中学校国語研究部長 佐々木 貴子 登米市教育研究会学校図書館研究部長 高橋 朋美 登米市社会教育委員会議議長 阿部 洋一 登米市立図書館協議会会長 西條 正典 図書館ボランティアだっこ・ラッコ代表 富士原 抄子 伊豆沼読書会代表 及川 俊弘 公募市民 石川 幸 公募市民 佐藤 直也 以上9名
欠 席 委 員 の 氏 名	一般社団法人とめ青年会議所理事長 猪股 圭太郎
事 務 局 職 員 職 氏 名	教育長 小野寺 文晃 教育部次長 阿部 信広 教育部生涯学習課長 守屋 乃扶子 教育部生涯学習課長補佐兼生涯学習推進係長 千葉 道宏 教育部生涯学習課主査 伊東 智 迫図書館長兼登米図書館長 木村 浩之 迫図書館副館長兼登米図書館副館長 伊藤 知幸 迫図書館技術主幹 野家 文恵 登米図書館技術主幹 本間 文 総務部政策推進局長 小野寺 憲司 総務部政策推進室長補佐兼政策マネジメント係長 佐藤 浩二
議 題	新図書館に求められる機能・サービスについて
会 議 結 果	別紙のとおり
会 議 経 過	別添のとおり
会 議 資 料	資料1：登米市立図書館の概要 資料2：登米市立図書館の利用状況等 資料3：新図書館に求められる機能・サービスについて （エリア構成、年代別機能、交流機能等） 参 考：案内図（迫図書館、登米図書館、中田図書室）

発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果
事務局	<p>開会に先立ちまして、本日、猪股圭太郎委員から欠席のご連絡を受けていますので、報告させていただきます。</p> <p>続いて、委嘱状の交付を行います。</p> <p>登米市教育研究会学校図書館研究部長の岩淵公一委員が3月末をもってご退任されたことから、新たな委員を委嘱するものです。</p> <p>小野寺教育長から委嘱状を交付しますので、名前を呼ばれましたらその場にご起立願います。</p> <p>【 委嘱状交付 】</p>
事務局	<p>それでは、只今から第2回登米市新図書館機能検討委員会を開会します。開会に当たりまして、小野寺教育長から挨拶を申し上げます。</p> <p>【 教育長挨拶 】</p>
事務局	<p>それでは、議事に入ります。議長につきましては、登米市新図書館機能検討委員会設置要綱第5条第1項の規定により、山崎委員長にお願いします。</p>
委員長	<p>今回は自己紹介も兼ねて基本的な考え方を共有しましたが、今回は新図書館の具体的な機能やサービスについて意見をいただきます。特に機能面に焦点を当てて話をしていただきたいと思っています。</p> <p>図書館サービスを提供する上で、建物の機能は非常に重要です。建物は後から変更ができませんので、長期的に使えるように考える必要があります。皆さんの立場から、思うことを遠慮なくお話しいただければと思います。</p> <p>まずは、現状の図書館について把握してから議論に入りたいと思いますので、事務局から説明をお願いします。</p> <p>【 事務局説明 ※資料1、2 】</p>
委員長	<p>事務局から説明をいただきました。ご質問があればどうぞ。</p>
委員	<p>貸出についてですが、登米図書館では市外の方が7.5%と高い割合を占めています。これは専門書や、葛西家や伊達家などの歴史に関わる資料が多いからでしょうか。</p>
事務局	<p>登米図書館では郷土資料を迫図書館の3倍ほど所蔵しているため、これらの閲覧を目的とされている方も多いためです。</p>
委員	<p>これからも登米の歴史に関する資料を大事にしていくべきだと思います。</p> <p>もう一点、利用人数についてですが、利用者の年齢層はどのようになっているのでしょうか。年代別のデータがあれば、それを参考にして、どのように利用者を増やしていくか考える上で、どの層に特に力を入れていくべきかが見えてくると思います。</p>

	<p>もちろん、子供向けのサービスも大事ですが、全体的な利用者層に関して、もし分かれば教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>来館者数については、入口のカウンターで人数を把握しているため、年代別の内訳は持ち合わせていません。ただし、有効登録者数については年齢別の分析が可能ですので次回の会議までに用意したいと思います。</p>
委員長	<p>一般的に日本の図書館では 20 代から 50 代の利用が少ない傾向にあります。例外として 30 代の女性の利用は多いですが、あとは高齢者と若年層が多い傾向にあります。</p> <p>全国の良い図書館の登録率は 20%前後なのに対して、登米市は 2.8%とかなり低い状況です。名取が 10%、多賀城が 30%程度なので、それらを目指すには今のままでは厳しいと言えます。</p> <p>新図書館を成り立たせるためには、今まで来なかった層が来るような工夫が必要です。例えば、働いている方や主婦の方、パートの方が利用しやすい環境や資料提供が大事です。</p> <p>登米図書館の地域歴史資料は、非常に価値があり、観光客も利用しますし、県境を越えても来ると思います。これは住民にとっても宝のようなものなので、大切にしていきたいと思います。</p> <p>機能面だけでなく、サービス面でも何か意見があればどうぞ。</p>
委員	<p>大崎市や一関市では、市外に住んでいる方にも貸出しをしています。登米市では市内の人や市内で働いている人にしか貸出しをしていません。新図書館ができた際には、市外の人にも貸出しができるようにしてほしいと思います。</p>
事務局	<p>貸出しの範囲については、第 4 回の会議でご議論をいただく予定にしていますので、その際に意見等をいただきながら整理させていただきます。</p>
委員長	<p>全国的には、近隣の市だけでなく、国民であれば貸出しできる図書館もあるぐらいで、これは自治体の考え次第です。</p> <p>現状を見ると、登米市民が大崎に行くケースもありますので、近隣市で貸出しをしないというのは少し見苦しいかもしれません。一般的には、隣接する自治体同士が協力し合うことが多いですし、最近では閉じた例は少なくなっています。</p> <p>他の方々は、どうでしょうか。</p> <p>ないようですので、次に行きたいと思います。「新図書館に求められる機能・サービスについて」、事務局から説明をお願いします。</p> <p>【 事務局説明 ※資料 3 】</p>
委員長	<p>かなり網羅的にしっかりとした機能要件が挙げられていますが、これについて皆さんからご意見をいただきたいと思います。</p>
副委員長	<p>エリア構成で、参考図書コーナーと地域資料コーナーがありますが、地域資料コーナーについてはコーナーよりも 1 ランク格上げしてほしいと思っています。</p>

	<p>両方を合わせても良いかもしれませんが、旧登米町時代に歴史図書館構想があったぐらいで、歴史資料は非常に重要で将来的にも価値のあるものが多いので、これを単なるコーナー扱いにするのではなく、もう少し格上げしてもらえればと思います。</p>
事務局	<p>地域資料コーナーについては、1万冊程度としており、参考図書コーナーと地域資料コーナーを合わせた調査研究スペースとして、一体的な配置を考えています。具体的な設計においては、いただいたご意見を参考にしながら検討していきたいと考えます。</p>
委員長	<p>今のご意見について、他の方向かありますか。</p>
委員	<p>歴史好きな方が、高齢だから本を寄贈しようかといったときに、博物館と図書館のどちらが受け口になるのでしょうか。本に関しては図書館、物品や民俗資料は博物館が適しているのかなというイメージはありますが、実際に図書館と博物館がどのようにすみ分けされているのかについては、一般市民は迷うところだと思います。</p> <p>新しい図書館は、他の施設との連携が必ず出てきますので、機能についての住み分けが重要になってくると考えます。</p> <p>また、登米図書館に歴史資料が多くあるので、図書館をなくして中央に集めるべきではないという意見もありますので、その住み分けをどう作るのが今後の課題だと思います。</p>
委員長	<p>地域資料の取扱いはとても大事な部分です。もともと博物館と図書館には正確な分離はありませんが、歴史的に見て、多くの自治体では図書館が先に設置され、その後に博物館ができることが一般的です。</p> <p>そのため、図書館にあった資料が博物館や美術館に移されることはよくあります。しかし、全てを博物館に移すわけではなく、博物館は主に展示を目的とした価値の高いものを所蔵する必要があるため、価値づけがしっかりできていない資料は図書館で所蔵されることとなります。</p> <p>一方、地域のチラシや市民の資料などは、博物館では大量に持つことは難しいため、図書館で保管され、時間が経過したものは博物館に移され、広く公開されることが一般的です。</p> <p>展示などで市民に見せるための資料は博物館が適していますが、一般的な資料は図書館でキープされることとなります。</p> <p>また、コーナーという表現については、必ずしも独立したスペースを意味するわけではなく、部屋のように作られることもあります。1万冊程度であれば、十分に展示や保存が可能ですので、そう心配はいらないかと思います。</p> <p>他の方、何かあればどうぞ。</p>
委員	<p>歴史的資料がテキストの場合は、これからデジタルアーカイブ化が進めば、場所を取らずに済むようになると思いますが、貴重な資料については、保管が必要なため、学校統合で開いた校舎の一室を借りて保管する方法も考えられると思います。</p>

委員長	<p>図書館は、保管機能の面が強いので、地域資料に関しても、閉架書架の中でどう位置付けるか考えればいい話だと思います。</p> <p>空き校舎など人が居ない場所で保管するのは、管理が簡単ではなく、多少問題があります。湿気や火災、酸化防止などの対策を含めた検討になるかと思えます。</p> <p>また、合併市町村の場合、それぞれの地域の歴史資料がバラバラになりやすいので、統合した図書館を作るときには、保存機能を持った閉架機能を考える必要があります。</p> <p>地域資料は資料の中で一番大事であることは間違いなく、地域資料がない図書館は書店と変わらないただの箱になってしまいます。</p> <p>他の事でも結構ですので、一人一人話していただきたいと思います。順番にどうぞ。</p>
委員	<p>率直な感想として、床面積がどれくらいになるか分かりませんが、こんな多機能を全て網羅できるのか不安に思っています。</p> <p>もし全部を入れようとすると、各機能がコーナー的になり、特色やオープンな空間、癒しのスペースが薄くなるのではないかと感じました。</p> <p>また、参考図書コーナーや閉架書庫についても、場所を取ることで、オープンで入っていきやすい空間が少なくなるのではないかと思っています。</p> <p>メディアコーナーも、カセットテープやVHSの保管保存が本当に必要なのか、また複合機や大型プリンターの貸出しもスペースがかなり必要になるだろうという懸念があります。</p> <p>さらに、交流機能に関して、セミナールームや多目的ホール、サポータールーム、飲食については、水の里ホールでもできるのではないかという印象を受けました。</p> <p>何を大事にしていくかが、もう少し明確に見えるといいと感じました。</p>
事務局	<p>昨年10月に改定した図書館構想では、図書館全体として3,500㎡を見込んでいますので、開架12万冊に問題なく対応できる面積だと考えています。</p> <p>また、交流機能については、図書館の活動から市民の皆さんが自由度高くご利用いただけるスペースとして、多目的ホールやサポータールーム、セミナールームの整備が必要であると考えています。</p>
委員	<p>駐車場も含まれますか。</p>
事務局	<p>3,500㎡は建物面積で、駐車場は別になります。</p>
委員長	<p>複合施設なので、駐車場は他の機能などと共有することになり、通常よりも大きくなるかと思えます。</p> <p>3,500㎡という面積は、県内でもかなり大きい図書館の部類に入るので、このままであれば、大崎市や名取市に近い規模になると思います。</p>
委員	<p>やはり、入りやすさや勉強しやすさ、行きやすさといった周辺環境が大切です。箱だけあっても、入りづらければ意味がないと思います。</p>

委員長	<p>駐車場や公園との取り合わせは考えるかもしれませんが。図書館では外構も重要ですので、設計に皆さんの意見を取り入れていければと思っています。</p> <p>個人的に一番気になるのは、人員の問題です。3,500㎡の図書館では、最低でも20人ほど必要だと思いますが、予算が通るかどうかが不安です。新館がオープンすると、最初は人が増えますが、毎年人が減っていくのが現実です。</p> <p>受付カウンターを多く作ると、それに見合う人数が必要になるので、効率的な運営を考えてカウンターを集中化することも大事です。図書館の運営には効率性が求められます。</p> <p>建物があっても中身がなければ悲しいですし、人があってのサービスなので、十分なサービスが提供できるような環境を作ってほしいと思います。</p> <p>次の方どうぞ。</p>
委員	<p>屋内遊具や地元産材を活用した木製おもちゃを入口として、本へつなぐというところが登米市らしさの現れで、ぜひ実現してほしいと思います。</p> <p>子供たちは、走り回ったり騒いだりすることもあるので、安全性への配慮が大事だと感じます。</p> <p>また、児童開架のスペースは、広い方がいいと思います。高い場所には手が届かないので、低い本棚がいいだろうし、ゆったり過ごせるためには靴を脱いでくつろげるスペースも必要だと思います。</p> <p>登米市で行っているブックスタート事業から始まり、小学校でも本に触れるという流れを作ることが大切だと感じています。子育て世代のお母さんたちが安心して図書館に行き、自然に本と触れ合える環境が整うといいなと思います。</p> <p>親子で絵本を見ながら、ゆったりとした時間を過ごせる空間が作れたらいいと思います。</p>
委員長	<p>児童書架は3段、絵本は2段くらいになると思います。</p> <p>昔の図書館では、子供が泣くと出て行けと言われることもありましたが、そうした図書館は公共施設として問題があります。</p> <p>音響ゾーニング、つまり静かなエリアと賑やかなエリアを分けることが大事で、それを意識した設計を進める必要があります。</p> <p>小学校2、3年生までは親子連れで図書館に通うので、そこをターゲットにして利用促進を図ることが重要です。</p> <p>幼児や児童サービスは非常に大切に、手を抜けないところです。</p> <p>最近、遊具があることで子供たちが図書館に行きたいって言うようになってきます。長時間滞在でき、お母さんも一緒に本を見たり、日曜日にお父さんと一緒に行ける場所になると、図書館は街の中で重要な存在になります。</p> <p>事務局から補足ありますか。</p>
事務局	<p>いただいたご意見については、今後の設計や施設整備の参考にさせていただきます。</p>
委員長	<p>次の方どうぞ。</p>
委員	<p>児童コーナーは、広く、4万冊程度は欲しいと思いますが、一般開架は6万冊も必要なのか疑問です。予算的にもそれだけ購入しなければならないし、そこ</p>

事務局	<p>まで大きい図書館でなくてもいいと思います。</p> <p>その分、閉架はしっかり確保して、郷土資料も裏にしまっておいて、必要なときに出して見せる形式でもいいのではないかと思います。</p> <p>ティーンズコーナーは居場所としては、あった方がいいと思いますが、以前行った図書館で個室がガラス張りになっていて、何をしているか見えるようになっていたので、参考にしたらどうかと思います。</p> <p>児童コーナーには、おはなし会ができる部屋は絶対に必要ですし、できれば靴を脱いで入れるスペースがほしいです。</p> <p>また、サポータールームには、自由に物が置けるようにしていただけると助かります。</p> <p>学習室のような小さな部屋があるのはいいと思いますし、自動貸出機は絶対に必要だと思います。</p> <p>交流機能については、エントランスが広く、原画展などを開催できるようなスペースがあればいいと思います。</p> <p>自動販売機を置いて、飲食可能なスペースを作るのはいいと思いますが、本のあるエリアでは飲食はできなくてもいいと思います。</p> <p>また、多目的ホールやカフェは必要ないと思います。</p> <p>開架冊数の12万冊は、あくまで能力ということで考えています。現在、3館の蔵書の総数は約12万6千冊で、それに対して12万冊というのは同規模の冊数になります。</p> <p>開館時には、開架・閉架合わせた蔵書数として17万冊程度を目標としており、書籍の購入や地域資料の提供を通じて集めていく予定です。開架の12万冊のうち、一般開架は半分の6万冊ですので、現在の所蔵を移すとそのくらいの量になる見込みです。</p> <p>ティーンズコーナーについては、登米図書館にYAコーナーが少しある程度で、現在の図書館にはない機能になります。今後、施設整備を進める上で、他の図書館を参考にしながら進めていきたいと考えています。</p> <p>児童コーナーについても、他の図書館を参考にしながら、おはなし室や靴を脱いで過ごせるスペースの確保を検討していきたいと考えています。</p> <p>サポータールームに関しては、市民と共に作り上げる図書館として、ボランティア活動のためのスペースとしてロッカーも含めて必要であると考えています。</p> <p>自動貸出機については、現在、中田図書室にのみ導入されていますが、新しい図書館ではICタグを使用した蔵書管理が必要になると考えており、併せて自動貸出機の導入も必要だと考えています。</p> <p>絵本原画展をエントランスで実施する件については、まだ検討中ですが、エントランスや多目的ホールで実施することで、図書館との一体的な活用ができると考えています。</p> <p>飲食については、図書館内で食事を許可する必要はないと考えていますが、水筒やペットボトルでの水分補給は許可するべきだと思っています。郷土資料のエリアなどを除いて、飲み物は許可する方向で検討しています。</p>
委員長	<p>エントランスや多目的ホールは、共有スペースですか。</p>

事務局	<p>そこについては、現在検討を進めている最中です。</p>
委員長	<p>図書館の面積やレイアウトに関してですが、施設全体の多目的利用や展示、エントランスの広さを考慮すると、開架の12万冊という規模は少し縮小されています。2年前、私が現場に入った際は、逆の方向に進んでいましたが、予算面や面積の問題で見直しがあり、適正な規模に落ち着きました。</p> <p>開架の書架は、びっしり詰めても35冊は入らず、実際には20冊程度が適切です。書架の設計も、低くして幅を広げると思った以上に面積が広がるので、収蔵能力を多めに見積もる必要があります。</p> <p>ティーンズ向けの小さな部屋を作るのは、大学ではよくあるのですが、図書館では管理や安全面の問題があり、広いエリアをゾーニングして、職員が監視できるようにするのが一般的です。特に中高生の場合、ガラスで仕切っても問題が起きやすいため、開放的な空間での管理が求められます。</p> <p>また、水分補給については、特に高齢者の薬のために水を持ち込む必要があり、キャップ付きの飲料を許可するのが常識です。薬を飲むためにトイレで飲むのは悲しいので配慮しなければなりません。</p> <p>最後に、カフェの設置については、施設全体の共有スペースとしての機能を考慮する必要がありますので、そこで決定することになるでしょう。</p>
委員	<p>いろいろ言いたいことがあります。まず最初に、以前の市民アンケートに立ち戻るべきだと思います。このアンケートでは、市民の皆さんがどのような図書館を求めているのか、その気持ちがよく表れています。しかし、どうもそのアンケートは単館の図書館をイメージしているようで、カフェや交流施設がある一つの建物の中で多機能を持たせた図書館という要望が多いようです。もし複合施設内に図書館があった場合、全く違うイメージになるので、その点を早めに決めておくことが重要だと思います。</p> <p>次に、子供向けの部分、特に児童開架の設計についてですが、学校との連携も含めて、教科書に基づく図書の扱いが重要だと感じています。小学校では、1年生が本を借りるのは大体10月からですが、それまでに自分の名前を記入した図書カードを作成し、本を借りる準備を整えるというプロセスを教えています。しかし、もっと早い段階で、本に触れる機会を提供し、子供たちに本を楽しんでもらうためには、新しい図書館がその機能を持つべきだと思います。</p> <p>また、日本十進分類法を使って自分で本を探せるようにすることが重要です。高学年になると、自分で図書館を訪れ、目当ての本を探す力が育成されます。これは、図書館に行くことが楽しい体験になるために必要です。市の図書館が子供たちにとって本を探す力を育む場として機能するべきです。</p> <p>さらに、図書館には遊具を置くのではなく、本で楽しむ場所としての設定が重要です。仙台市のように、高学年に市内の施設を回れるパスポートを渡す取組は、非常に良いアイデアだと感じています。登米市でも以前、このようなパスポートを渡し、市の施設を活用する活動をしていました。</p> <p>結論としては、児童開架のスペースを広げすぎるのではなく、NDC分類に基づき、子供たちが自分で本を探し当てられるようなコーナー作りが大事だと思います。そして、学校図書館にはない豪華な図鑑や特別な本を市の図書館に揃えることで、自然と本好きの子供たちが集まるのではないかと思います。</p>

<p>委員長</p>	<p>児童サービスというのは、非常に年齢層が広くて、特に今の話を聞くと、小学校以上の世代に求められる部分が多いと感じます。最近、教科書にはたくさんの図書が紹介されており、日本十進分類法が必ず付けられています。これは約10年前に改定され、学校図書館と公立図書館がうまく連携して使われるようになったからです。ただし、それ以前の世代、特に幼児や保育園、乳幼児向けには、また別のサービスが必要になります。児童サービス一つにしても、その範囲は非常に広いので、一言でまとめるのは難しいです。</p> <p>ティーンズ向けの問題もありますが、児童サービスは、実は年齢層別に細かく分けて対応しないと、どの世代にも有益なサービスにはなりません。サービスは、連続的に切れ目なく提供されるべきです。例えば、ティーンズ向けサービスが最近注目されていますが、これは大人になって本を読まなくなってしまう問題に対応するためです。大人になってからいきなり図書館に行って本を読むようにはならないので、ティーンズ向けのサービスが重要だと認識されています。</p> <p>また、児童向けサービスも続けていかなければならず、ここを疎かにすると、大人になってから読書習慣をつけることは難しいです。なので、効率が良くないかもしれませんが、面積や人的なサービスを含めてしっかりと行うべきだと考えています。学習利用も考慮する必要があるので、面積の確保も重要です。</p> <p>先ほど事務局が説明したように、図書館については、具体的にどのような中身を提供するかが今後の課題です。例えば、4万冊という数が多いか少ないかという意見がありますが、重要なのはそのユーティリティ、つまりどのようなサービスを中に組み込むかという点です。</p> <p>次回の話では、サービスに関する具体的な意見が出てくると思うので、その際に更に議論していただけるとありがたいです。</p> <p>時間もありますので、他にあればどうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>児童開架のコーナーには、赤ちゃんを抱っこしているお母さんもいれば、よちよち歩きの子供、一人で歩けるようになったばかりの子供もいます。0歳から2歳ぐらいの子供は激しく暴れることは少ないですが、3歳から5歳ぐらいになると、だんだん動きが激しくなります。</p> <p>そのため、児童コーナーを一緒にするのは危険を伴うので、小さい子と少し大きい子は分けて、区別したスペースが必要かなと思いました。例えば、兄弟が0歳、3歳、6歳といった年齢差がある場合、同じスペースで安心して見守れるような安全性に配慮した設計が必要ではないかと思います。</p> <p>また、先日一関図書館を視察した際に、非常口が非常に多いことに気付きました。これがとても重要だと思います。大きな建物で、もし何かあったときに1か所に集中して逃げるよりも、各所に非常口がある方が安全です。</p> <p>最後に、先ほどのお話にも関連しますが、登米市のブックスタート事業は、少し物足りない感じがしています。他の自治体では、ブックスタートの後にセカンドブックやサードブックという形で、読書サービスを継続的に提供しているところがあります。登米市でもそうした取組を取り入れるべきだと思います。例えば、サードブックは小学校1年生で、授業の一環として図書館に行き、図書カードを作り、図書館の利用方法を学ぶというのはどうでしょうか。フィンランドでは1年生で図書カードを作って図書館を利用する授業があるそうです。学校と図書館が連携し、セカンドブックやサードブックを通じて、読書を</p>

事務局	<p>継続できる仕組みがあれば良いと思います。学校支援センターのような機能があれば更に効果的です。</p> <p>図書館、特に児童コーナーについては、安全が大前提だと思います。年齢に応じて、子供同士が危険な思いをしないような工夫が必要ですので、今後の検討の中で、その点を配慮しながら進めていきたいと思っています。</p> <p>また、非常口に関しては、建築上の要件も関係しているかもしれませんが、こちらも併せて検討させていただきます。</p> <p>それから、ブックスタートの後に図書館利用が継続していないのではというご指摘をいただきましたが、せっかく図書に触れる機会を提供していますので、その後も継続して図書に触れる機会を作る必要があると感じています。いくつかの自治体では、特定の年齢になると図書館で利用者登録をし、カードを配布しているところもありますので、その取組を参考にしながら、図書館利用につながるような仕組みを検討していきたいと思っています。</p>
委員長	<p>入学時や転居時にカードを作ることはよくあります。これを通じて、底辺人口を増やさない、うまくいかないのが非常に重要です。また、対象を細かく分けることも大事です。他の地域でも丁寧に行われています。</p> <p>ブックスタートに関しては、人口が少ない地域では比較的簡単に進められますが、都市部では難しいです。出生率が低い地域では、あまり力を入れずに進められることが多いです。しかし、ブックスタートだけでは効果が薄いのは確かです。サードブックまで行っても、1回の配布だけでは意味がありません。</p> <p>重要なのは、図書館や学校など、引き続き支援を行うことです。住民を巻き込んで、継続的なサービスを提供していかなければ、本当に読書ができるようになることは難しいです。部活やスポーツ活動があるため、なかなか難しい部分もありますが。</p>
委員	<p>子供図書館を数か月やってきた中で感じたのは、0歳児や1歳児を連れてくると、最初はおもちゃで遊んで帰りたくない泣く子が多いんです。でも、それを続けていく中で「読みたい」「ママも読んであげる」と思うようになり、徐々に定着していく様子が見えてきました。ブックスタートの話も出ましたが、ブックスタートで本をもらって、ポロポロになるまで読んだお母さんもいれば、全然読まないという方もいます。この差をどう埋めるかが課題だと思います。</p> <p>新しい図書館ができるので、そこで読書が日常に入ってくるように意識を向けていくことが大切だと感じています。それと、複合施設の中での図書館の位置づけについて、まだ確実なことが分からないなと思いました。規模が変われば色々変わるでしょうが、図書館があるから人が集まるのではなく、図書館の重要性をしっかりと意識し、何を置くかという点を考えてほしいと思いました。</p>
委員長	<p>基本的なことをきちんと押さえた上で、サービスが提供されるべきです。ただたくさんをやるだけでは意味がありません。</p> <p>やはり、今の時代、黙っていても子供たちが本を読まないのは、普通になってしまっています。昔と違って、本を読んでいると変わった人と言われる時代になっています。もっと自然に、本の世界に入ってもらえるような環境作りが重要です。</p>

	<p>図書館だけではできないこともありますし、民間の力もすごく大事です。子供たちが魅力を感じて、本に触れられるような工夫も必要だと思います。バランスを取ることが大事で、図書館のメインは遊び場ではなく、あくまで本と触れ合う場所です。しかし、何もしないわけにもいかないので、例えば公園と隣接させるなどの工夫が大事だと思います。</p>
委員	<p>前回、図書館に直接出向くことが困難な方へのサービスについて考えましたが、どれが当てはまるのか悩んでいました。アウトリーチサービスについても資料には記載されていましたが、実際にはどのように進めていくかが難しいと感じました。また、豊里、津山、米山、南方などの地域についても考えましたが、特に南方は佐沼に近い割には図書館の利用率が低いようです。</p>
委員	<p>南方では迫図書館の情報が全く入ってきません。生涯学習カレンダーにも迫図書館に関することは何も載っていません。</p>
委員	<p>利用者をみると、南方、米山、豊里が低い。本当に書いてあるような求められる機能やサービスが入るかどうかは分かりませんが、利用率を上げてほしいというのが私たちの願いです。そのためには、どのような支援やサービスが必要か、どのような方法があるのかを、皆さんと話し合いながら進めていければと思います。せっかく立派な図書館ができて、利用されないのがっかりしてしてしまいますので、情報発信や利用促進についても考えていきたいです。</p> <p>もう一つ、読書マラソンについてですが、何歳から始めるべきなのか、幼稚園や小学校のどの時期からが適切か、その点についてお聞きします。</p>
事務局	<p>新しい図書館に求められる機能やサービスは広い分野にわたりますので、今回と次回の2回に分けて議論を進めていきたいと考えています。本日は、主に図書館内で提供する機能やサービスについて、たたき台をお示ししました。</p> <p>アウトリーチサービスについては、図書館の外に向けたサービスとして、学校図書室の支援などを8月の会議で議論したいと考えています。また、豊里、津山、米山など、図書館から離れた地域に住んでいる方々にも図書館を利用していただけるといったような工夫が必要だと思っています。</p> <p>読書マラソンについては、新たな取組として目標に向かって読書を進めるものですが、対象年齢についてはまだ決まっていないので、今後検討していきます。</p>
委員	<p>読書マラソンは、大体何歳頃からが一般的ですか。</p>
委員長	<p>小学生です。</p>
委員	<p>そうすると、小学校の先生方との連携が必要と思われそうですが、学校現場は非常に忙しいので、そこも考慮しながら進めてもらいたいと思います。</p>
委員長	<p>今回はエリア構成を中心に話しましたが、サービス面については次回考えることとなります。広域サービスや障害者支援、学校連携などは非常に重要なテーマですので、その点は次回扱う予定です。今の意見をしっかりと蓄積しておいて、次回またお話しできればと思います。</p>

副委員長	<p>最後に副委員長からお願いします。</p> <p>前回もお話ししましたが、地域資料コーナーについてです。登米の図書館には膨大な資料がありますが、必ずしも全てを展示する必要はなく、必要なときに見せる形でもいいと思います。また、劣化を避けるため、新しい図書館で管理する方が良く考えます。</p> <p>博物館的な資料と図書の区別がはっきりしないこともあります。そういった点も考慮し、今後、公民館内の図書室が分館的に管理されることもできるのではないかと考えました。回答は不要ですが、この点についても考えていただけたらと思います。</p>
委員長	<p>地域資料をどう保存し、管理していくかは重要な課題です。登米に残すのか、新館で管理するのか、両方の案があると思いますが、今後の整備の中で決めていくことになると思います。</p> <p>時間もかなり過ぎてしまいましたが、連携や広域サービス、アウトリーチについては次回しっかり議論できると思いますので、その際までまた自分の考えをまとめておいていただければと思います。</p>
委員	<p>もしこれらの機能が実現すれば、非常に充実した図書館になるとと思いますが、予算的にはそれを実現するのは難しいかもしれません。</p> <p>参考になるのは一関図書館です。設備面では、自動貸出機などが非常に参考になりますし、先ほどのアウトリーチの取組も、一関図書館は東北の中でもロールモデルとなる存在です。</p>
委員長	<p>たくさんのご意見をいただき、それぞれが意味のあるものでしたが、予算や面積の問題もあるため、バランスを取ることが必要です。</p> <p>長時間のご協力ありがとうございました。次回は、ソフト面のサービスについて、さらに深く議論したいと思いますので、よろしく願います。</p> <p>それでは以上で協議を終わります。事務局に戻したいと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは次第4の「その他」ですが、事務局からは特にございませんが、皆様方から何かございますか。</p>
委員	<p>6月30日に南方の改善センターで、複合施設を考える会の説明会があるそうです。その中で、図書館に関するお話もあるようなので、興味がある方はぜひ参加してみてください。</p>
事務局	<p>その他、何かございますでしょうか。</p> <p>無いようであれば、閉会に入ります。閉会の挨拶を西條副委員長お願いします。</p>
事務局	<p>【 副委員長挨拶 】</p> <p>以上をもちまして、第2回登米市新図書館機能検討委員会を閉会します。本日は大変ありがとうございました。</p>